

新基地建設反対名護共同センターニュース

在沖米軍基地の全閉鎖を米に申し入れよ！

へり基地反対協 新型コロナ感染拡大で防衛局に要請

へり基地反対協議会は5日、仲本興真事務局長など代表が沖縄防衛局を訪れ、在沖米軍基地内で爆発的なコロナ感染拡大が県民を大きな不安に陥れているとして、「在沖米軍全基地の閉鎖」などの申し入れを行いました。申し入れ項目は、①在沖米軍基地を当面閉鎖するよう米軍に申し入れること、②基地内感染について必要なすべての情報を公開させること、③県内全基地の全ての従業員にPCR検査の実施、④辺野古新基地建設を直ちに中止し、その費用をコロナ対策に充当すること、の4項目。

不誠実な回答に終始する担当官

対応した担当官は「辺野古」工事中止の要求に対し、「普天間飛行場の一日も早い危険性除去のため中止できない」と、呪文のような常套句を繰り返すなど、メモを読み上げる不誠実な回答に終始しました。

反対協代表(左側)は「県民の命を守る立場に立つて仕事をしたい」と厳しく要望しました。



→交渉終了後、駆けつけた20人の支援者と報告集会を持ちました

18日まで抗議活動中止に

県の非常事態宣言を受け、「オール沖縄会議」はゲート前の抗議活動を18日まで休止すると発表しました。

告示・縦覧は早くも18日以降

8月上旬予定の「設計概要変更申請書」の告示・縦覧開始は、早くも8月18日以降に遅れる見通しです。

名護民商が最高現勢突破!

名護民主商工会(仲本興真会長)は3日、持続化給付金申請の要求で4人が入会し会員現勢が673人となり過去最高現勢(670人)を突破しました。コロナ禍でも「一人の倒産者を出さない」と業者の要求を取り上げ、今年5月以降、58人の新会員を迎えての成果です。同民商は23年前の名護市民投票時の会員数約300人の2.2倍となりました。この間、中小業者の要求実現運動の中で組織を拡大し、へり基地反対協加盟の中核団体として辺野古新基地建設反対運動にも大きく貢献してきました。なお、沖商連傘下で最大の沖縄民商も2日現在803人の会員現勢となり過去最高現勢を更新しています。この沖商連の躍進は、全国の民商で「沖縄から学ぼう」と大きな励みになっています。

ジュゴンの鳴き声4カ月連続検出

沖縄防衛局が実施しているジュゴンの生息調査で4月と5月にもジュゴンの鳴き声とみられる音が検出されました。2月から4カ月連続です。4月～5月はコロナ感染予防のため工事が中断していた17日間に144回もの鳴き声を検出していました。しかし、防衛局は工事を中断していません。



ジュゴン調査船(手前の小型船)、大型船は安和港からの赤土運搬船(大浦湾で7月31日)

ジュゴン保護キャンペーンセンター国際担当の吉川秀樹さんは「国際的に注目されている問題であり、ジュゴンの鳴音を公開し、世界の専門家が検証できるようにするべきだ」と指摘しています。(沖縄タイムス7/30より)

「辺野古」強行は平和的生存権、環境権の侵害

●いつもニュースお送りいただきありがとうございます。

辺野古への新基地の建設は住民の生活の安全を損なわせ、またその地の文化や生活手段と密接なかわりを有する自然環境を破壊するものです。これは、住民の平和的生存権(憲法前文)、環境権(憲法13条・25条)の侵害にあたると思います。

また、沖縄の民意は明らかであるにもかかわらず、憲法上の地方自治を無視して建設作業の再開を強行したこと、とりわけ新型コロナウイルス感染問題の影響で遅れた分を取り戻すかのように、急ピッチで進めていることに怒りを禁じえません。

新基地建設反対の声を一人の市民として、また研究者として出し続けます。

室蘭工業大学大学院准教授

清末 愛砂

●毎回の共同センターニュースの受信はとても嬉しく、年金者組合の友人たちに転送しています。すぐに「ありがとう!」とメールが届きます。

300号発行を迎える喜びは、翁長知事さんや大西照雄先生(元へり基地反対協共同代表)、幸喜敦子さん(元新婦人名護支部長)など「命の海」を守ってたたかった多くの故人にも届き、天国からエールを送ってくれていると思えます。

これからもよろしくお願ひします。くれぐれも健康にご留意を。

(奈良) 湯沢 和子

300号迎えた本ニュースへの

メッセージ その⑦